



菜の花～花言葉は豊かさ・快活。古来より報春の使者として親しまれています～

第7回 共和病院地域医療フォーラム

3月12日に地域医療フォーラムが開かれました。当日は、風が強く寒い日となりましたが、多くの方々に参加されました。今年で7回目となり、「地域で暮らす～ユーザー支援の2つの側面～」というテーマで、第1部は弁護士の方野和雄先生より「高齢者、障害者の権利擁護の確かな視点」という講演、第2部は当院福祉ホーム「あしび」準備委員会より「今後の地域精神医療～福祉ホームB型へむけた取り組み～」という発表がありました。高齢者や障害者が地域で暮らしていくことを支援していくうえで、知っておく必要のある情報や考え方を得ることができ有意義な時間となったのではないのでしょうか。

さて、第一部の方野先生のお話は、法律という「難しい」「わかりにくい」というイメージをもつのですが、具体的で分かりやすく、法律家として高齢者の権利擁護を地域の組織や当事者に対して誠実に熱心に実践している姿が浮かぶお話でした。禁治産制度に変わり現在の制度である「成年後見制度」や社会福祉協議会が行なっている「地域福祉権利擁護事業」について聴くなかで、「契約」というものを改めて知り、金銭管理などを行なう上でどちらを利用するとよいか?どんなケースでこうした制度を活用するとよいか?を学ぶことができ、今後こうした制度を必要とするケースが増えていくと感じました。また、「オレオレ詐欺」や悪徳商法など障害者やお年寄りが被害にあうことが多くあります。こうした被害にあわないためにも、

われわれが法律の知識を踏まえた上で、日常生活の支援を周りの人と協力して行なっていく大切さを実感しました。

平成17年10月、福祉ホームのオープンにむけて現在、当院スタッフはがんばって準備しています。精神保健医療は大きく変化して来ています。これまで当院は、グループホーム、訪問看護、精神科急性期治療病棟、老人性痴呆疾患治療病棟の立ち上げなどと変化に対応してきました。今年は、精神科訪問看護と共に福祉ホームは大きな取り組みの一つです。多職種の病院職員がそれぞれの専門性をフルに生かして、退院にむけての援助を行なっています。こうした活動の一部が紹介されましたが、きめの細やかな対応やチーム医療・患者様中心の援助の重要性を再確認できたと思います。また、こうした取り組みを通して、入院生活からは見えてはこなかった患者様の個性や能力の発見がありました。治療スタッフの患者様に対する見方の偏りが生じやすいことを気にとめ、日々患者様を正しく丁寧にみていくことだと思っています。今後は、「地域のなか」という視点での援助が中心になっていきますので、地域の人のかかわりを如何にもって行くかが課題であります。

1部2部ともフロアーから積極的に質問や意見があり、予定時間が足りなくなるということもありました。こうしたことへの関心の高さを実感しました。次年度も、今年を踏まえこうした場をもちたいと思います。



知多半島地域こころの健康フェスティバル

主催：知多半島地域こころの健康づくり連絡協議会



平成16年度 知多半島地域 こころの健康フェスティバル

平成16年12月18日、天候に恵まれながらも、外はすこし肌寒い日ではありませんでしたが、会場には大勢の方々が集まり、平成16年度知多半島地域こころの健康フェスティバルが開催されました。

午前10時、太鼓道場(武豊町中央公民館サークル)の方達による勇壮な和太鼓の演奏で幕を明けました。引き続き共和病院ダイケアセンターのメンバーによる「冬のソナタ」の演劇が上演されました。メンバーは7月から活動を始め、毎週1回演劇練習に取り組んで来たそうです。テレビドラマ「冬のソナタ」を見たメンバーの声がかきかけだったそうです。台本、俳優、大道具作りとメンバーが主体になり、一生懸命、楽しみながら取り組んでこられたそうです。「舞台の上から笑顔と感動を皆さんにお届けしたい」とななかの熱演でした。

知多半島地域こころの健康フェスティバル

主催：知多半島地域こころの健康づくり連絡協議会



セレモニーでは知多半島地域こころの健康づくり連絡協議会会長山口眞さんの「こころの時代といわれる21世紀に入った今、ノーマライゼーションの実現に向けて進んでいる筈ですが、心の病についての偏見は強く、社会

での生活を難しくしているのが現状であります。知多半島地域こころの健康フェスティバルを開催することで、心の病をもつ人と健常者がとけあい、理解し合える場になればと、切に願うばかりであります。との挨拶に続き、半田保健所長・武豊町助役の方々の

御挨拶があり、締めくくりは平成15年度フェスティバル優勝チーム共生福祉会の方による選手宣誓で幕をおろしました。

当日、会場には様々な活動や作品を紹介した展示コーナー、似顔絵ライブコーナーが設けられ、広場では大道芸やモリゾー・キッコロの登場で参加者を楽しませてくれました。

また、多くの施設やグループが嗜好を凝らしたバザー



や自主製品の販売、うどん、カレーなどのお店で賑わいました。昨年に続き登場した大道芸人ファニートンボ・ワンマンバンドさんが登場。特に今回、ベース抱かえた大府病院のPSWの方とのコラボレーションは息もぴったりで、会場を行き交う参加者も、その迫力あるパフォーマンスに暫し足を止め聞き入っていました。

午後の部は会場をアリーナに移し

て本日のメインイベント、ソフトバレーボールの競技大会が行われました。ソフトバレーボール大会には、昨年に引き続き2度目の出場で、前大会は入賞を果たせず参加メンバーみんなが悔しい思いをしていました。その思いをバネに、今回は10月から週1回程度の特別練習を組み、大府市体育館やC館多目的ホールを使用しての基本動作や連係プレーを繰り返し練習し、本大会に望みました。その甲斐もありコートの上ではファインプレーの連続で、一回戦の南知多病院さんチーム、二回戦の南知多病院看護寮さん



チームをそれぞれ大差で撃破し、そして決勝戦は憩の郷さんチームとの念願の対戦になりました。「どちらも応援しなくちゃいけないのね。大変なことになったわ」と榎本院長も困惑するほどの兄弟決戦(?!)。両チーム共にポイントを取る度に歓声が沸き起こりました。白熱した試合の末、見事共和病院チームが勝利し、悲願

の優勝を達成しました。優勝決定後は「良かった～」と安堵の表情で共和病院模擬店のカレーライスのサービスを受けていたのが印象的でした。

表彰授与は、選手のみならず試合には出場できなかったけれども頑張った応援をして下さった方が優勝品を受けられ、チームの監督が緊張しながらも代表で感想を述べるなど、最後まで盛り上がった大会でした。

我が病棟自慢

～C-1病棟が熱い～



こんにちは。私達は老人性痴呆疾患治療病棟(C-1)で勤務するスタッフ一同です。H15年8月にC館病棟は設立され、治療病棟としての運営は1年6ヶ月以上経ちました。平井堅そっくりな沖縄大好き病棟医とおやしギャグ炸裂の痴呆専門医師のコンビにユーモアあふれるスタッフがそろっているので病棟はいつでも笑いが絶えない明るい病棟になっています。今年の1月より病棟責任者として若手エースと噂される鈴木係長を迎えました。係長の若さと指導力により、スタッフのモチベーションがさらに上がった事で、患者様へより一層の医療・看護・介護が提供できるようになったことは言うまでもありません。



運営開始からまだまだ日は浅く、課題は多いと思われませんが、患者様をお預かりするにあたりスタッフ一同、誠心誠意を持って接しています。ご満足していただける様に常日頃から患者様についてスタッフ間で話し合い、ご家族との連携を取りながら日々努力をしております。この活気あふれるC-1病棟にいつでもお立ち寄り下さい。スタッフ一同心よりお待ちしております。

個人情報保護 に関する当院 の基本方針 ↓

当院は、ご利用になる方々の人格とプライバシーを尊重し、下記の基本方針に基づき個人情報を適切に取り扱います。

- 1.当院は、個人情報保護法に関する法律その他の規範を遵守します。
- 2.当院は、医療の提供や医療機関の管理運営に必要な範囲において個人情報を収集し、別に示した利用目的の範囲で情報を利用します。
- 3.当院は、個人情報を適切に取り扱うために、個人情報の管理責任者を置き、個人情報保護のために院内すべての従事者を対象に教育・啓発活動を行います。
- 4.当院は、個人情報への不正アクセス、紛失、破壊、改ざん及び漏えい防止のための安全対策・安全管理に努めます。
- 5.当院は、外部委託業務に関しても個人情報が適切に取り扱われるように、当該委託業者との間で委託契約を交わします。
- 6.当院は、個人情報の第三者への譲渡・提供を本人の同意なく行うことは原則として致しません。ただし、法令により定められた報告・届出については除きます。
- 7.当院では、本人の申し出により情報の開示、訂正、利用停止、削除等を行います。なお、法令等の定めによりご希望に添えない場合もあります。個人情報についてのお問い合わせ、訂正、苦情、相談は下記までお願いいたします。

2005年 4月 1日

特定医療法人共和会 共和病院

お知らせ

栄養サポートチーム共和

4月より共和病院において、患者様の栄養を通しての健康管理、QOLの向上を図る目的で「栄養サポートチーム共和」の活動が始まりました。 病院長

かくして老人ボケは「認知症」になった

共和病院老年科部長 河野 和彦

ドイツのアロイス・アルツハイマーが「アルツ

ハイマー病」を報告して来年で100年になります。アルツハイマー病は、狭義ではアルツハイマー型痴呆の中でも64歳以下という若さで発病するタイプを指しますが、痴呆症の多くは平均すると76歳くらいのお年寄りに多い病気です。アルツハイマー型痴呆はご存知のようにレーガン元大統領、俳優のチャールトン・ヘストンさん、同じくチャールズ・ブロンソンさんもかかった病気です。

5年前にアリセプトという痴呆の進行を平均9カ月遅らせてくれる薬が使えるようになり、早期から飲み始めるほうがよいとされています。しかし脳卒中後の痴呆のように発病時期がはっきりしませんので、発病に早く気づく方法は結構難しいものです。テレビ画面に出てきた昔の歌手の名前が思い出せない、などということは老化のせいであって発病ではありません。かと言って「痴呆外来」に行くというのは気恥ずかしいものです。日本で一番よく知られている知能検査を考案した長谷川和夫先生は、この「痴呆」という侮蔑(ぶべつ)的な表現がお年寄りが病院に足を運ぶ妨げとなっていると考え、厚生労働省に別の呼称に変えるように提案しました。その結果、「認知症」に変わるようになったのです。

私は短い語句でよかったとホッとしましたが、認知心理学会、認知科学会が、痴呆の学会と間違えられるので「認知失調症」にしてくれないかとクレームを出しました。白内障と同様に「認知障」のほうが確と

する意見もあったそうです。いずれにしても行

政用語から「痴呆」が消えることになりました。英語では「dementia」といい、そもそもは「精神が抜ける」という意味のギリシャ語に由来しています。平成17年4月からは「認知症を知る1年」として都道府県や関連学会にこの呼称の使用を求め、集中的に広報することになっています。思えば精神分裂病もあつという間に統合失調症として「認知」され、患者さんたちにも評判がよいと聞いております。認知症もすぐに普及することでしょう。

話しつつに皆さんに知っていただきたいことがあります。若い認知症の患者さんのことです。私は三重県で43歳のピック病患者さんを診察しています。彼のご両親は近親結婚ですから遺伝子異常が強く発現したのでしょう。アルツハイマー病が頭頂葉・側頭葉を中心に萎縮するのに対して、ピック病は前頭葉が強く萎縮して人格が変わってしまいます。彼も子ども返りようになってしまい2年前に奥さんに離婚されています。若いから仕方がないと思いますが、配偶者が発病したときにそれを支える人、逃避する人、さまざまな夫婦があるものです。この21年間、認知症の患者さんとその家族を見てきました。他人には入り込む余地のない家族の絆に私は入り込んで人生勉強をしてきました。しかし教科書には「正しい生き方」は書かれていませんし、離婚は犯罪ではありません。「正解」がないから人生は奥深いのでしょう。人の寿命とは、人のあり方を認知するために与えられた期間なのでしょう。



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは!

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは!

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様へより良い医療をやさしく安全に提供し、納得のいく医療を受けていただくために努力しています。それには利用者の皆様と医療者の意志の疎通が最も重要であると考えます。

これを実現するために、わたしたちは思いやりのある、人格を尊重した医療を提供するとともに、以下のような医療を目指しています。

- 1.あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
- 2.あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
- 3.あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
- 4.あなたの医療上の個人情報保護されます。

病院長 榎本 和



特定医療法人 共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>

俳句コーナー

ふるい寄せて
白魚崩れん
許りなり 漱石

名譽院長
加藤 邦之助

大正五年の句。小説執筆多忙で俳句を作ることが少なくなり、余暇を水彩画に求める様になりましたが、胃潰瘍の大患後には以前と違って味わいの深い句を作る様になりました。芭蕉の「明ぼのやしら魚白きこと二寸」、其角の「白魚をふるひ寄せたる四つ手かな」、五所平之助の「昼深く生ける白魚をすすり食ふ」等があり、私も九州福岡の白魚専門の料亭で二度白魚の生きたまま「おどり食い」をしたことがあります。美味しいというより喉を通る刺那を樂しむという感じでした。四〇五糶の半透明で腹も透けてみえる上品な味の魚。天麩羅も淡泊でよろしいですよ。

芝居では黙阿弥の「三人吉三」の大川端の場で「月もおぼろに白魚の、簀かがり」もかすむ春の宵・・・という科白せりふが有名になっていますね。